



決定事項等

- 議論の結果、統合校名は「左近山小学校」とすることが決まりました。
- 次回以降の検討委員会で、①統合校の通学安全 ②本宿小との特別調整通学区域 ③中学校の通学区域 等について検討し、最終意見書を取りまとめていきます。



1 統合校の名称について

学校名アンケート集計結果（票数順）

合計572票の応募をいただきました。ご応募ありがとうございました。
 （内訳：地域・保護者から52票、3校の児童から520票）
 なお、6票以下の応募案については、紙面の都合上省略させていただきましたのでご了承ください。



| 名前 | 読み | 応募総数 | 児童応募数（※） | 主な理由 |
|--------------|--------------|------|----------|--|
| 左近山 | さこんやま | 238 | 204 | ・左近山にあるから。 ・左近山の3つの学校が統合するから。 ・左近山の名前を校名に残してほしいから。 |
| 左近山第三 | さこんやまだいさん | 85 | 85 | ・第一と第二があるから。 |
| 左近山さくら/左近山桜 | さこんやまさくら | 9 | 8 | ・きれいな名前だから。 ・桜のきれいな左近山なので。 ・桜を見て毎日笑顔で学校に来れるように。 ・みんながいっぱいいるという感じだから。 |
| 左近山旭/左近山あさひ | さこんやまあさひ | 7 | 6 | ・旭区は広いし、左近山第一小は左近山だから。 ・旭区の「あさひ」、旭区のキャラクターあさひくんから「あさひ」、朝日のように子ども達がパッと明るく、グングンと伸びてほしいから。 |
| 左近山小高 | さこんやまおたか | 7 | 7 | ・そのままがいいから。 ・左近山からも小高からも人が来るから。 |
| 左近山第三小高 | さこんやまだいさんおたか | 7 | 7 | ・全部の小学校の名前を合体した。 ・第一小学校と第二小学校を足して第三小学校で、小高小学校を足して第三小高小学校。 |
| 左近山第四 | さこんやまだいよん | 7 | 7 | ・一と二と小高（三）があったから次は四だろう。 ・小高小が第三だから新しい学校は第四だから。 ・第一と第二と小高が3つで、もう一つ出来るから。 |
| 左近山三い/左近山みつい | さこんやまみつい | 7 | 7 | ・3つの学校が合体するから。 |

（※）児童応募数は応募総数の内数

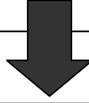
統合校の名称に関する主なご意見・ご質問等

【凡例】☆・・・検討委員、→・・・事務局

- ☆ アンケート結果を見る限り、「左近山」という名称は付けたほうが良いのではないかと。「左近山」の前後に付ける言葉をみんなで考えるというのはどうか。
- ☆ シンプルに「左近山小学校」とする考え方もあるし、「左近山」の前後に何か言葉を付けるという考え方もある。
- ☆ アンケートに関心を持って人は大勢いたが、募集期限が20日までということで、応募が難しかった人もいた。その中でも、自治会の総意としては、左近山という名前は残してほしいという要望が圧倒的に多かった。
- ☆ 学校名は、最終的に教育委員会の方で決めるという話も聞いているが、どうなるのか。
 → 学校名については、この小規模校対策検討委員会から、意見書を教育委員会に提出していただき、意見書の内容を踏まえて、横浜市教育委員会、横浜市会で審議します。市会での議決をもって、学校名は最終決定ということになります。
- ☆ 最終的には、検討委員会で合意された学校名が採用されるのか。
 → 今までの事例では、検討委員会での議論の結果を尊重し、意見書の学校名が採用されています。
- ☆ シンプルに、一番多い「左近山小学校」というのが素晴らしいのではないかと。

（2ページ目につづく）

- ☆ 希望を持って新しい学校になる、と考えたい。そうするとやはり「左近山」の後ろに何か言葉を付けて、新たな学校のスタートになるのが良いのではないか。
- ☆ アンケート結果を重視するというのが当然なことだと思う。競った時には、競った内容を勘案しながら検討委員会で検討するが、アンケート結果は圧倒的な数で第1案が出ている。
- ☆ 「左近山」という言葉を個人的には残したほうが良いと思う。もし「左近山」の前後に言葉を付けるのならば、例えば3番目にある「さくら」だったら、自分たちの学校のことを「さくら小」と呼ぶ。そういう呼び方によって、3校が一緒になっても新しい気持ちで1つの学校を作っていけるのではないか。
- ☆ 左近山を象徴するような言葉を付けたほうが良いのではないか。アンケート結果を尊重するならば、「左近山さくら」や「左近山みらい」、もしくは「左近山あさひ」などになるだろうが、改めてアンケートを取る必要はないと思うので、限られた期間の中で集まった、今回の結果の中で決めるのが一番民主的なやり方だと思う。
- ☆ 「左近山」の票数が238票で、児童からは204票集めている。児童がせっかくこれだけ賛成したのに、大人の立場で、「左近山」の後ろに何か言葉を付けていいのか、という思いがある。このアンケート結果に、大人の気持ちを入れるかどうかだと思う。



議論の結果、統合校の名称は、「左近山小学校」とすることが決まりました。

2 中間意見書について

統合校の名称までの決定を受けて、教育委員会へ提出する中間意見書の内容について確認を行いました。最終的な字句修正については、委員長と副委員長に一任することで了承されました。なお、中間意見書については、次の内容で林委員長から横浜市教育長に提出されました。

平成24年3月27日

横浜市教育委員会
教育長 山田 巧 様

左近山小高小学校・左近山第一小学校・左近山第二小学校
小規模校対策検討委員会
委員長 林 重克

左近山小高小学校・左近山第一小学校・左近山第二小学校の小規模校対策に関する中間意見書

当検討委員会は、横浜市教育委員会が策定した「横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針」に基づき、左近山小高小学校・左近山第一小学校・左近山第二小学校の小規模校対策について検討するため、昨年10月に設置されました。

この度、以下の事項について意見をとりまとめましたので、申し述べます。
なお、通学安全についての要望等については、後日別途申し述べます。

1 小規模校対策の計画案

(1) 小規模校対策についての考え方

児童の教育環境の維持・向上を図るため、左近山小高小学校・左近山第一小学校・左近山第二小学校の3校を統合すべきと考えます。

ア 小学校の通学区域

基本的に、現在の左近山小高小学校・左近山第一小学校・左近山第二小学校の通学区域を合わせた通学区域が適当と考えます。

(2) 統合の実施方法

ア 統合後に使用する学校施設は、現在の左近山第一小学校が適当と考えます。

イ 統合の時期は、平成25年4月が適当と考えます。

ウ 統合に伴い、必要な教室数を確保するため、現在の左近山第一小学校を増築・改修することが適当と考えます。なお、増築・改修の間中は左近山小高小学校を使用することが適当と考えます。

エ 統合に際しては、児童の負担を軽減するよう充分配慮すること。

2 統合校の学校名

統合校の名称は、「左近山小学校」とすることが適当と考えます。

3 跡地利用について

統合により生じる土地建物の活用に関しては、現在の学校が地域にとっても様々な役割を担っていることから、地域などの意見・要望を十分に踏まえ、反映していただけるようお願いいたします。

3 跡地利用に関する要望について

【凡例】 ☆・・・検討委員、→・・・事務局

- ☆ 地域の高齢化の実情を踏まえて、総合福祉センターが必要だと考えている。
- ☆ 地域防災拠点はどうなるのか。
→ 現在、3校とも地域防災拠点に指定されており、左近山第二小学校は地域医療救護拠点にも指定されています。統合後の取り扱いについては、担当部署に地域の皆様のご意見・ご要望をお伝えしていきます。
- ☆ 3校とも、各地域に溶け込んだ施設になっていることを踏まえて、跡地利用の方向性を考えていただきたい。教育委員会事務局は、要望を担当部署に伝えるだけでなく、横のつながりもしっかりとお願いしたい。
→ 市会におきましても、学校統合後の跡地利用については、地域の皆様の要望を教育委員会事務局できちんと取りまとめて、担当部署に伝えるように、というご指摘をいただいています。この検討委員会で跡地利用に関しての忌憚の無いご意見をいただき、対応していきます。
- ☆ 跡地利用に関する要望については、次の検討委員会の中でも話し合うのか。
→ 最終の意見書を取りまとめる前に、ご要望をいただければ意見書にその内容を記載することは可能です。



跡地利用に関する要望については、引き続き検討委員会にご意見をお寄せいただくこととなりました。

4 今後の検討内容について

【凡例】 ☆・・・検討委員、→・・・事務局

事務局から、今後の検討委員会で検討する事項について、説明がありました。

- ア 通学安全点検の実施について
→ 第6回検討委員会までに統合校の想定される通学路を歩いて点検し、その後通学安全についての要望書を取りまとめて提出していただきます。
- イ 本宿小学校の特別調整通学区域の取り扱いについて
→ 現在、本宿小学校の通学区域内に設定されている、左近山第一小学校との特別調整通学区域について、統合後の取扱いを検討していただきます。
- ウ 中学校の通学区域について
→ 3校統合に伴い、本宿中学校と左近山中学校の通学区域について、検討していただきます。
- エ 意見書の取りまとめについて
→ 予定されている内容について、検討が全て終了したのち、最終意見書を取りまとめて教育委員会へ提出していただきます。
- ☆ 中学校の通学区域について、この小規模校対策検討委員会の中で検討する根拠はあるのか。
→ 第1回目の検討委員会で皆様にご承認いただきました、小規模校対策検討委員会の設置要綱の中で、「左近山の3つの小学校の児童の教育環境の向上について検討するため、この検討委員会を設置する」となっています。いずれ児童は中学校に上がっていきますので、この児童の教育環境の向上のために、中学校の通学区域も見直しが必要だと考え、検討委員会でご検討をお願いしたいと考えています。
- ☆ 中学校の学区について話し合う中で、左近山中学校や本宿中学校の校長先生、PTAの方々はどうするのか。
→ 本宿中学校・左近山中学校の両校長先生及び両PTAの皆様、あらためてご説明・ご依頼をいたします。この検討委員会で、望ましい中学校の通学区域のあり方について、一緒に議論していただければと考えています。



次回以降の検討委員会で、ア～ウの内容について検討し、最終意見書を取りまとめることとなりました。

5 その他、検討委員会での主な質問・発言

【凡例】 ☆・・・検討委員、→・・・事務局

- ☆ 来年度の学校の教職員の人事異動については、この統合を見越して、充分配慮するよう関係部署に伝えたのか。
→ 平成25年4月の統合に向けて、関係校の人事について充分配慮するよう関係部署に伝えています。
- ※ その他、事務局から、年度が変わることにより、各自治会役員・PTA役員が交代することについて、次の提案がありました。
→ PTAの皆様、自治会町内会の皆様について、役員や会長の交代もあると考えています。その取扱いについては、事務局としては、議論の継続性といったこともありますので、現検討委員に引き続き参画していただくということもよろしいと考えています。また、新会長が望ましいという、各団体のご判断であれば、新会長でも結構です。各団体の中で、検討委員の皆様を継続されるか、もしくは新年度変えるということについてご議論いただきたいと思います。
- ☆ 各団体での承認を得られれば、総交代もありえる。検討委員会の重要な事項の継続性ということを見ると、まず検討委員会の方向性として、基本的には今の検討委員のメンバーが良い、ということを決めておくべきではないか。
- ☆ 基本的な考え方としては、現検討委員の継続が望ましい。ただ、そういう中で、各団体の意向を重んじますということと、ご了解いただきたい。
→ 委員が交代される場合は、事務局までご連絡をお願いします。

6 これまでに検討委員会以降に寄せられたご意見

【凡例】◎・・・ご意見、→・・・事務局回答

第4回検討委員会以降、第5回検討委員会までに計4通のご意見が寄せられました。

【1通目】

- ◎ 左近山中学校の生徒数が少ないのであれば、本宿中学校に全員通えるように決めていただきたい。
→ 左近山中学校については、平成23年5月1日現在、一般学級の生徒数が193名、学級数は6学級となっており、今後も8学級以下の小規模校の状態が続く見込みです。左近山中学校の小規模校対策については、いただいたご意見を踏まえ、今後の検討委員会の中で検討していただく予定です。

【2通目】

- ◎ 左近山第二小学校から左近山高小学校に通学するのに、防犯上見通しが良くない所もあり、安全面に不安がある。スクールバスの検討はしないのか？
→ 横浜市では、「横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針」（平成22年12月策定）の中で、小学校の望ましい通学距離は、徒歩での通学を前提に、児童の体力、生活に対する影響などを考慮して、片道おおむね2km以内としております。
左近山第二小学校の通学区域から、左近山高小学校・左近山第一小学校へ通学する距離については、この基準に当てはまるものと考えております。
また、想定される通学路については、今後の検討委員会の中で、地域、保護者の皆様のご協力もいただきながら、安全面を考慮して点検を行い、危険箇所等について改善が図れるように検討していただきます。

【3通目】

- ◎ 市沢団地、左近山7, 8, 9街区から通学するのに、通学路、通学時間の不安がある。通学路の整備だけでなく、スクールバスや相鉄バスでの通学も検討していただきたい。
※本件については、ご連絡先が不明だったため、要望として受け付けました。

【4通目】

- ◎ 平成25年から暫定校舎で2年間過ごさせるのはどうしてか。その2年間に卒業する児童のことは考えているのか。左近山高小学校の改修費用を、3校交流のための費用に充ててはどうか。
→ 左近山高小学校・左近山第一小学校・左近山第二小学校の3校については、一般学級数が11学級以下の小規模校となっております。検討委員会の基本的な考え方として、「地域で育つ子どもたちを第一に考えよう～お互いの「想い」を共有しよう～」を掲げ、議論した結果、小規模校であることの課題、問題を早期に改善し、子どもたちのより良い教育環境を確保することが大切であるという考えから、平成25年4月に学校統合をすることが決まりました。
学校統合に伴い最大2回の引越しを経験する子どもたちが出てまいります。教育環境の変化は、子どもにとって大きな負担になると考えておりますので、この負担をできるだけ軽減するよう、対応について検討してまいります。

※この他、検討委員会前日に1件ご意見が寄せられました。こちらのご意見については、次回のニュースに掲載させていただきます。

7 保護者説明会の概要について

(事務局より説明)

- 3校合同説明会（場所：左近山中学校体育館）
☆平成24年3月10日（土）13時～ 参加者53名
☆平成24年3月12日（月）13時～ 参加者81名
左近山第一小学校通級指導教室保護者説明会（場所：左近山第一小学校）
☆平成24年3月14日（水）10時～ 参加者12名
※第4回検討委員会で決定したことを中心に、説明を行いました。



【第6回検討委員会の日程】

- ★平成24年4月28日（土）15時から 左近山第二小学校にて
★検討予定内容（案）
1 通学安全点検の結果について
2 本宿小の特別調整通学区域の取り扱いについて
3 中学校の通学区域について



「左近山高小学校・左近山第一小学校・左近山第二小学校小規模校対策検討委員会」の経過、横浜市の基本方針等はホームページでもご覧になれます。

- ・基本方針など <http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/kyoiku-info/gakku-houshin.html>
- ・左近山高小学校・左近山第一小学校・左近山第二小学校小規模校対策検討委員会 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/gakku/shoukibo/sakonyama.html>



「左近山高小学校・左近山第一小学校・左近山第二小学校小規模校対策検討委員会」では、皆さまからのご意見を受け付けております。FAXかEメールにて、事務局(学校計画課)までご連絡ください。

旭区のキャラクター
あさひくん

- *「左近山高小学校・左近山第一小学校・左近山第二小学校小規模校対策検討委員会」事務局（学校計画課）
TEL:045-671-3253 FAX:045-651-1417
Eメール:ky-sakonyama@city.yokohama.jp

